

TALK SESSION

ふるまちアカデミー THE★談会

※学年は取材時(2025年2月時点)のものです。

アニメ・マンガ学部での授業や生活は、
ホントのところどうなの？
学生たちが本音で話してくれました！

キャラクターデザイン分野

山崎海里(4年)

埼玉県 春日部共栄高等学校 出身

マンガ分野

茂本美祐(2年)

群馬県 富岡高等学校 出身

マンガ分野

清野 冴(1年)

新潟県 新津南高等学校 出身

アニメーション分野

片柳耀能(3年)

ニュージーランド Rangitoto College 出身



好きな絵を描きながら学位が取れる

—皆さんはなぜ、開志専門職大学のアニメ・マンガ学部を選んだのですか？

片柳：僕はシンプルに、「大学卒業資格(学位)が取れる」というのが大きな決め手でしたね。

一同：あー、わかる!! アニメを学びながら学位が取れるってことだよな？

片柳：そう、それもあるし、好きな絵を描きながら学位が取れるのがすごく魅力的だったんです。専門学校に進むか、美大を受けるかで迷っていたときに、「自分が本当に学びたいのは純粋な芸術じゃないかも?」って思って。そんなときに開志専門職大学を見つけて、「え、アニメ・マンガを学びながら学位も取れるじゃん!」って感じで決めました(笑)。

茂木：私は「大学生のうちに思いっきり絵を描いて過ごせる場所がいいな」と思って、狙えそうな芸術系大学をいくつか受験しました。その中で合格したのが開志専門職大学だったんです。

清野：私は最初、専門学校か長岡造形大学のどちらかに進もうと思っていたんです。でも、気づいたら長岡造形大学のオープンキャンパスが終わっていて(笑)。「どうしよう……!」ってなって、専門学校のオープンキャンパスにも行って見ました。でも、2年間ってすごく短く感じて、じっくり学ぶには物足りないかも……と思ったんです。そこで、アニメ・マンガ学部なら4年間かけてしっかり学べるし、自分に合っていると感じて、開志専門職大学に決めました!

茂木：私も同じ気持ちかも……! 2年間じゃ短いし、物足りないなって思っていました。



—入学前に抱いていたイメージは、入学後に変わりましたか? それとも変わらなかったですか?

山崎：入学前は、どんな感じなのかあまり想像してなかったんですよ。

片柳：わかる、イメージ湧かなかったよね?

山崎：うん。でも、「こういう学生が集まるんだな」とか、「こんな先生がいるんだな」というのをざっくり知って、「アニメやマンガを勉強できる!」っていうワクワク感や期待感で入学を決めた感じです。

茂木：でも、コース選択でキャラクターデザインの分野に進んだんですよね? 入学当初は「いろいろ学べるから!」って入ったけど、結局やりたいことがそこだった、みたいな。

山崎：あー、そうそう! でも、やりたいことっていうより……実はコース選択、ギリギリまで迷ってたんです。

茂木：私も! 最初は「自分がマンガを描く」なんて思ってなくて。でも、今はマンガ分野で描いていて、自分でもちょっとびっくりしてる(笑)。

清野：私も同じです。

茂木：え、でも冴ちゃん(清野)、マンガ向きな感じがするよ? 絵とか。

清野：そうなんですかね? うーん、よくわからないですけど(笑)。
山崎：絵柄によって、特徴というか向いてるジャンルとかってあるのかもしれないね。

片柳：自然とそっちに寄っていくのかも。

茂木：それはあるかも!

山崎：みんなは、もともと絵を描くのが好きだったの?

片柳：僕はちょっと違うかな。高2~高3がちょうどコロナ禍で、めっちゃくちゃ暇だったんです。家の中で何かやろうと思って、「絵でも描いてみるか」って感じで始めました。

一同：えっ、なんで!?

片柳：暇すぎて、できることがなかったんですよ(笑)。しかも、そのときニュージーランドにいたし、お金もそんなになくて……。絵を描くって、紙と鉛筆さえあれば始められるじゃないですか。それで、「どうせなら上手になりたい!」と思って、1年間ひたすら模写をしました。

一同：すごっ!!

片柳：マンガのコマを見ながら、1コマずつガーッと描いて……。

茂木：それ、暇だからってレベルを超えてる(笑)。「努力」の域!

片柳：まあ、1年以上毎日続けていたら、だんだんと絵を描くのが面白くなってきたんですよ。それで高3の夏くらいに、「イラストレーターになりたい」と思うようになって、開志専門職大学に進

学しました。

山崎：でも、入ってみたら意外と絵ばかり描くわけじゃなかったよね。

茂木：特に1年生のときはそうだった! もっと「ひたすら絵を描いてスケジュールがバンバン」みたいな感じを想像してたけど、実際は教養系の科目もあって、「あ、大学らしさもちゃんとあるんだな」って思いました。デッサンやクロッキーをめっちゃ緻密にやるのかなって思っていたけど、意外とそういうのばかりじゃなかったし。

—印象深い授業や面白かった授業はありますか?

山崎：僕と耀能(片柳)は映像系の授業、好きだよな!?

片柳：あー、好きだね(笑)。「映像音響概論」は特に面白かった!

茂木：たしかに! 周波数の違いとか、オクターブの話の聞いたときに、「えっ、面白い!」って思ったな。

山崎：「これ物理の授業かな?」って思ったよね(笑)

片柳：「映像音響概論」が印象深い理由って、映像を見てレポートを書いたら、先生がめちゃくちゃ丁寧なフィードバックをくれるところじゃない?

一同：わかる! 一人ひとりもしっかりコメントをくれるのが嬉しいよね。

清野：レポート返却がめっちゃ楽しみだった! なんか、交換ノートをやっているみたいな感じでしたよね(笑)

片柳：あと、アニメ分野では、2年次と3年次でそれぞれ1本ずつアニメを制作するんだけど、僕が受けたときはグループ制作だったから、現場さながらの雰囲気で作れたのが楽しかった! 今は個人制作がメインになっているみたいだけど、チームで役割分担して作るのすごく良い経験になったな。

山崎：グループで制作するのって、学校だからこそできることだよな。

スポーツ、画力アップなど多様なサークル活動

—皆さん、サークルには入っていますか?

山崎：僕と耀能(片柳)は「ふるまちスポーツサークル」に入っています。学部のメンバーでスポーツをやろうというサークルで、毎週、やりたいスポーツを投票して決めるんです。バドミントン、バスケ、バレーとかをワイワイ楽しんでいます(笑)

茂木：私も最近「ふるまちスポーツサークル」に入りました! なので今は、音楽サークル「BONDY」、「開志創作連合」、「漫画研究会」、「星鈴会(学生ブランドアンバサダー)」と、合わせて5つ



のサークルに入ってます。

一同：すごいね！（笑） 意欲が違う！

茂木：いやいや、全然回りきれてないんですけど（笑）

山崎：開志のサークルはけっこう、内々で楽しめるのが良い（笑）。他の学部とキャンパスが離れていたり、インカレサークルなどがありなかったりするから、好きなものに特化したサークルを作れるのが面白いなと思います。

茂木：「開志創作連合」では、たとえば「コミティア」などの即売イベントに出店したりしています。自分たちの作品を商品化して、手に取ってもらえたり、購入してもらえたりする経験ができるのはすごく大きいですね。

冴ちゃん（清野）はどんなサークルに入ってる？

清野：「開志創作連合」、「漫画研究会」、「星鈴会」、それと「ガチサー」。「みんなでガチで画力を上げよう！」っていう目的で立ち上げたサークルです。

茂木：「ガチサー」、新しいよね！



「ひたすら絵を描いてスケジュールがパンパン」みたいな想像をしていたけど、教養系の科目もあって「大学らしさもちゃんとあるんだな」って思いました

山崎：レジスタンス集団!?（笑）

清野：うん（笑）。デッサンをしたり、長期休みに成果物報告会を開いたりしています。

片柳：この大学って、描いたら描いただけ上手くなるし、そういうサークルがあるのはすごくいいと思う！

——皆さんの住まいについて教えてください。一人暮らしの人は？

山崎・片柳・茂木：はい！

清野：おぉー（笑）

片柳：僕はキャンパスから徒歩15分くらいのところに住んでいます。普通のマンション型のアパートで、家賃は5～6万円くらい。生活費は5万円くらいでやりくりしていて、何人か開志の先輩も住んでいます（笑）。でも、特に交流はないですね（笑）

茂木：私はキャンパスから徒歩10分以内のアパートに住んでいます。家賃は5.5万円くらい。家賃と光熱費は親が負担してくれていて、仕送り5万円で生活しています。

山崎：茂木さんのところ、商店街の中だから、雨でも傘がいらなよね？

茂木：そう！ 横断歩道以外は全部屋根がついていて、キャンパスまで雨に濡れずに行けるんですよ。

一同：それいいね!!

清野：私は実家暮らしで、電車通学しています。時間は片道40～50分くらいですね。けっこう遠いんですけど…… 電車めっちゃ好きなんで！ 全然苦痛じゃない（笑）

グループ制作では、現場さながらの雰囲気で作れたのが楽しかった！ チームで役割分担して作るのはすごく良い経験になりました



——皆さん、アルバイトはしていますか？

山崎：バイトは……うーん、けっこう飽き性なところがあって、大学に入学してから3回くらい変えています（笑）。最初はラーメン屋で、その後、カニ専門店でも働いて、今はファミレスのキッチンで働いています（笑）

片柳：2年生まではキャンパス裏のイタリアンレストランでバイトをしていました。でも、こころ辺でバイトをしていると先生をよく見かける（笑）

一同：わかる!!

清野：私は地元のイタリアンレストランで毎週土曜日だけ働いています！

茂木：私は1年の秋から居酒屋でバイトをしていたんですけど、忙しくて辞めちゃいました。でも、年1回、高校のミュージカルの背景を描く仕事をしていて、お金をもらっているの、それがバイトといえばバイトかな（笑）

片柳：時給は1,000円いったらいいほうだね？

山崎：そうですね。土日はプラス〇円、深夜はプラス〇円みたいな感じで、基本は1,000円くらい。

清野：私も1,000円です！

——キャンパス周りの印象は？

茂木：思っていたよりもはるかに都会。万代エリアや駅まで遠くないし、そこまで行けばすごく充実してる！

山崎：新潟って田舎だと思っていたけど、新潟市は都会だった！人も多し。でも都会ながらも一人になれる空間があるのいい！

清野：新潟県内でもこの辺りは都会です！ でも、大学に入るまで古町に来たことがなくて。万代エリアまでしか行かなかった（笑）

山崎：古町エリアは、大きな橋を渡って行くっていうワクワク感と、海が近いのいい！ 1年生のときは授業終わりに友達と海まで歩いて、砂浜で遊んだりした！

片柳：やっていることが少年すぎない？（笑）

茂木：でも私もそう！ 海うれしい！ 砂浜うれしい！

入学前には専門学校のオープンキャンパスにも行ってみましたが、2年間ってすごく短く感じて、じっくり学ぶには物足りないかも……と思ったんです



就活に生きる、企業実習や課外活動

——臨地実務実習の思い出はありますか？

山崎：一番印象に残っているのは、広島ของเกม制作会社（ヤルキマントッキーズ）での企業内実習ですね。実際のゲームに登場する敵キャラクターを制作しましたが、一番大変だったのはリメイクが多かったことですね。「学生感覚」と「仕事としての制作」の意識の違いを痛感しました。

片柳：僕は東京の出版系の会社（DNP出版プロダクツ）で実習をしました。前半は雑誌のレタッチ作業や電子書籍の体裁設定、後半は縦スクロールマンガや1分20秒くらいのライトアニメを制作しました。決められたお題の中で、何とか形にしていく経験がとても印象的でした！

茂木：私は新潟のご当地ヒーロー「超耕21ガッター」のプロデューサー会社で企業内実習をしました。内容はガッターのイラスト制作、切り絵デザイン、LINEスタンプデザイン、ミニ動画の脚本・編集など、とにかく幅広い仕事を経験しました。実習中にはガッターの敵役の衣装を着たメンバーもいて、「こんなのを着る機会もあるんだ!」って、びっくりしました（笑）。すごく楽しい経験でしたね！

——就職活動について、聞かせてください。

山崎：僕は3年生の1～2月くらいから動き出した感じですね。

片柳：合計で何社くらい受けたの？



自分がやりたいと思ったことを大切にしてほしいです。飛び込んだ先で、本当にやりたいことが見つかるかもしれないから！

山崎：5社くらいかな？ 少ないほうだと思う。だいぶ早く決まったので、他の会社のことはわからないけど、僕が内定をもらった会社（コントロール）では、最初の面接から社長、監督、プロデューサーが面接官でした。

一同：え、早くない!?

山崎：びっくりしたけど、エントリーシートに書いた内容を含めて、面接官とのキャッチボールがしっかりできて、面接自体が楽しかったですね。

僕はアニメ分野を専攻していなかったのですが、アニメーターになるのは難しいと思って、制作進行職を志しました。そのために、新潟国際アニメーション映画祭などの課外活動での経験が活きたと思っています。内定をもらった会社が第一志望だったので、6月には就活を終えました。

片柳：僕も今、ぼちぼち就活中です。でも、この時期（2月）になると3年生がみんなナイーブになっている。この話をすると、みんな沈んでいく（笑）

山崎：早く決まる人は、この時期（3年の冬）から動いてた人だと思う。あと、開志専門職大学は企業実習が充実しているので、実習先に就職が決まる学生も多いです。それがこの大学の強みでもあ

りますね。

——1・2年生は、就職に向けて不安や悩みはありますか？

茂木：マンガ分野の進路がはっきりと見えにくいのが不安ですね。アニメ分野ならアニメ会社、キャラクターデザイン分野ならゲーム会社と、何となくイメージできますが、じゃあマンガ分野は？ というのがわからなくて。マンガ家デビューが王道なのはわかるけど、実際に自分がどうなりたいかかわからなくて、ちょっと焦りがあります。

——マンガ家になりたい？

茂木：最初は考えていなかったんですけど、「週刊少年サンデー」の出張編集部への添削会に参加して原稿を見てもらったときに「ネームのやり取りをして、新人賞を目指してみよう」と言われたんです！ それで、「この道も頑張ってみようかな」と思いました。
清野：まったく同じです。すべて（笑）

——最後に、高校生にアドバイスやエールをお願いします！

清野：入試で絵を3枚、提出するんですけど、余裕をもって取り組むことが大切です！

一同：あー、わかる！

茂木：とにかく、たくさん絵を描いておけばなんとかなる！ 上手い下手は関係なく、「絵を描きたい!」という気持ちがあれば大丈夫だから、向上心や熱量を持って入学してほしいです。

片柳：僕が言いたいことをみんなが言っちゃった（笑）。でも、描いた人が描いた分だけ上手くなるし、やらなかったら成長はない。この大学に入ったら自然に絵が上手くなるわけじゃないから、入学後にどう頑張るかが大事！

山崎：みんなすごい（笑）。僕は、「面白そうだな」と思ったら、まず行動してみるというのを大事にしています。開志には絵以外の研究分野の先生もいるし、自分がやりたいと思ったことを大切にしてほしい。飛び込んだ先で、本当にやりたいことが見つかるかもしれないから！

茂木：海里先輩、それ全部、体現してますよね（笑）

片柳：お祭り男だからね（笑）

山崎：あはははは（笑）

構成・文：石田雄大、野上勇人

